



2024年4月1日

各 位

会 社 名 リビン・テクノロジーズ株式会社  
代表者名 代表取締役社長 川合 大無  
(コード番号：4445 東証グロース)  
問い合わせ先 取締役 管理部 部長 小林 翔太郎  
(TEL. 03-5847-8556)

### 経済産業省中小企業庁の「PMI 取組事例集」掲載に関するお知らせ

当社は、2023年12月15日付けで「株式会社仲介王の株式取得（子会社化）に関するお知らせ」にて開示した株式会社仲介王のM&Aに関し、経済産業省中小企業庁が実施する「令和4年度補正中小企業活性化・事業承継総合支援事業（小規模案件におけるPMI支援実証事業）」に参画しており、当該事業の成果が「PMI取組事例集」として2024年3月29日付けで経済産業省のホームページに掲載されましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

<https://www.meti.go.jp/press/2023/03/20240329007/20240329007.html>

「中小企業のPMIを促進する、実践ツール・活用ガイドブック・事例集を公表します！」  
(経済産業省ホームページ)

PMIはPost Merger Integrationの略で、主にM&A成立後に行われる統合に向けた作業であり、M&Aの目的を実現させ、統合の効果を最大化するために必要なものです。

当社は、成長戦略の一環としてM&Aを重視しており、企業価値向上を目指して引き続き積極的にM&A及びPMIに取り組んでまいります。

以 上

The background features a collage of business-related images: hands pointing at a document with charts, a handshake, and a person in a suit. A large, stylized green geometric shape, resembling a diamond or a stylized 'X', is overlaid on the image. The text is centered within the white space of this shape.

# PMI

## 取組事例集

令和6年3月  
中小企業庁

# 事例 15

## 両者の強みをいかし共同運営サービス開発を目指す アクションプランを整備し、人材・システムの融合も推進

### 取組事例



#### 譲受側

#### リビン・テクノロジーズ株式会社 (IT業)

- 東京都/従業員数300人未満
- 不動産業界向けDXプラットフォーム事業
- 過去のM&A経験:1回



#### 譲渡側

#### 株式会社仲介王 (IT業)

- 群馬県/従業員数10人未満
- 某不動産会社の基幹システムの受託開発・保守・運用



#### 支援機関

#### 株式会社バトンス (M&Aプラットフォーム)

小規模～中小企業をはじめとした幅広い企業と第三者のマッチングを支援し、M&Aによる事業承継サポートを提供



#### M&Aの 背景・目的

**株式譲渡** 譲受側は販促領域への売上依存度が高く、業務支援領域への展開が成長戦略テーマであった。そのような中、譲渡側の不動産業界向けシステム開発ノウハウをいかして「新たな共同運営サービス」を開発することで、譲受側の営業力・顧客基盤の強みをいかした業務支援領域の拡販が見込め、双方の成長曲線が描けたため株式譲渡に至った。



#### 課題・ 主な取組

#### アクションプランとそれを推進する体制を整備し、新たな共同運営サービスの開始に向けてエンジニア人材やシステム基盤等の融合を推進

- 譲渡実行時点では明確になっていなかったアクションプランと推進体制(分科会)を整備した。
- 共同運営サービス開発に向けたエンジニア人材やシステム基盤等の融合を推進した。



#### 推進体制

- 譲受側** 社長1人(意思決定)、PMO1人、開発担当1人、営業担当1人、管理担当1人
- 譲渡側** 社長(実務推進)、開発担当3人、営業担当1人、管理担当(税理士事務所)
- 支援機関** 1人(現状分析、統合戦略/推進のアドバイザー)

### 取組詳細

#### PMI 譲渡実行時点では明確になっていなかったアクションプランと推進体制(分科会)を整備

譲渡実行後Day1時点ではアクションプランが明確になっていなかったが、譲受側でM&A・PMI経験があるPMO担当をアサインし、PMO担当がメイン担当となって詳細なWBS(作業実施項目を分解したスケジュール表)を作成した。

WBSは、M&Aの目的に照らした3つの統合テーマ「開発統合(情報システム基盤の整備、エンジニア合同採用、共同運営サービス開発)」「営業統合(取引先との連携強化、新たな顧客開拓の検討)」「管理統合(会計基準の統一、決算体制強化・決算早期化、財務関連の検討、ガバナンス整備・強化、人事労務体系の検討、相互理解の促進と尊重)」に整理した。

三つの統合テーマ毎の推進体制を整備し、毎週月曜に開催する合同会議で精緻なWBS進捗管理を実施している。会計面の統合、就業規則等の人事労務統合のめどが立ち、Day100以内に統合完了する見通しである。

#### PMI 共同運営サービス開発に向けたエンジニア人材やシステム基盤等の融合を推進

懇親会や日々のコミュニケーションによって両者の社長同士の信頼関係を構築している。

また、譲受側の社長から譲渡側の従業員に対して今後の経営方針説明会を開催し、共同運営サービス開発等のビジョンを発信することで譲渡側の従業員のワクワク感の醸成につながった。

エンジニア合同採用や新たに会社をM&Aする将来も見据え、譲受側と譲渡側の人事労務や決裁権限等の規則・規程類を統合させていった。退職金制度の有無等の相違点に関し、従業員向けの説明会を開催してモチベーションの維持向上と不安の解消に努め、積立金の一時払や給与面も配慮しつつ、丁寧かつ慎重に統合を進めていった。

システム基盤や開発環境の統合も順次進めており、譲受側の生産性高いシステム開発環境・開発方式等を譲渡側の従業員(エンジニア)にも展開している。

### 今後の展望 / これまでの取組の振り返り

#### 譲受側の 声

本来はDDの結果等も踏まえ、M&Aの契約前からPMIのアクションプランを準備すべきであったが、本件は譲渡実行後にWBSを作成し始めることになってしまった点が反省点であった。

譲渡実行後、迅速にアクションプランと体制を整備し、Day100までにやるべき管理統合は順調に進捗しており、足下は開発リソース(エンジニア人材)の共有や、稼働状況の実態把握等を進めている。

M&Aの目的である「共同運営サービスの開発と拡販」に向けて、引き続き開発統合・営業統合を進めていく。

#### 支援機関の 声

譲渡実行後にアサインされたPMO担当の方が、M&A・PMI経験豊富で優秀な方であったため、スピーディーにWBS整備と進捗管理体制整備につながった。

本件では譲受側オリジナルのアクションプランツールを進めていったが、ツールの形式よりもM&Aの目的に照らした的確なWBS設計がPMIの成否を決める。

M&Aの目的達成に向けた開発統合・営業統合も順調に進んでいくものと確信している。

